

水稲初期害虫から夏・秋ウンカまで
育苗箱施用で長期間省力防除する

アドマイヤー[®]

箱粒剤



イネミズゾウムシ



イネドロオイムシ



ヒメビウンカ



ツマグロヨコバイ



トビロウンカ



アドマイヤーは、水稲・野菜・果樹などの重要害虫の防除に有効な殺虫剤として、日本はもとより世界中で使用され、その効果と安全性で高い支持を受けています。アドマイヤー箱粒剤は、育苗箱施用をすることにより稲のウンカ類・ツマグロヨコバイ・イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、イネヒメハモグリバエを的確に、しかも長期間防除することができます。優れた残効性により、中・後期に問題になるウンカ類・ツマグロヨコバイ、イネアザミウマの本田防除回数を減らすことができるので省力防除が可能です。

2004年度
農林水産大臣賞
受賞

アドマイヤーの有効成分
「イミダクロプリド」の創出に対して

※取扱所—おなじみの ®は登録商標 (F-1018)



Bayer CropScience

■育苗箱施用の総合防除剤です。

- 育苗箱施用で、初期害虫のイネミスズウムシ、イネドロオイムシ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイなどの初期害虫をまとめて防除します。ウンカ・ヨコバイ類による縞葉枯病、萎縮病、黄萎病などのウイルス病の感染防止する効果があります。

■新しいタイプの殺虫剤です。

- 新しい系統の薬剤で、作用性も有機リン剤、カーバメイト剤、合成ピレスロイド剤などとは異なりますので、これらの剤に抵抗性をもった害虫に対しても優れた効果を示します。

■防除回数を減らす省力防除剤です。

- 中・後期害虫のセジロウンカ、トビイロウンカ、ツマグロヨコバイまで長期間にわたって省力防除が可能になり、防除回数を減らすことができます。

- イネアザミウマの増殖を抑え、黒点米の発生を防ぎます。

■高い殺虫活性があります。

- 浸透以降性、速効性に優れ、低濃度でも高い活性があるので長期間害虫の被害を防止します。

■移植後しばらくたってからイネミスズウムシの越冬成虫が浸入する水田では、成虫が目につくことがあります。しかし、アドマイヤー箱粒剤の制虫剤的作用で成虫の行動は抑えられ、蔵卵・産卵も抑制されるので、根を食害し大きな被害を出す幼虫の発生はほとんどありません。

■適用害虫および使用方法

(2007年9月現在の登録)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネミスズウムシ イネアザミウマ	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り 50~80g	移植前2日 ~移植当日	本剤のみ 1回 イミダクロプリド3回 (本田では2回)	育苗箱の上から 均一に散布する
	イネドロオイムシ イネヒメハモグリバエ	育苗箱 1箱当り 50g			

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

■注意事項

- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生ずる恐れがありますので、注意して下さい。
- 誤って過剰に使用したり、3日以上移植せずに育苗箱におくと、葉先枯れなどの薬害を生ずることもありますので、所定の使用量・使用時期・使用方法を厳守して下さい。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植して下さい。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行ない、移植後田面が露出しないように注意して下さい。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

F-1018/07.10 NY 印刷:平成19年10月

バイエルクロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
www.bayercropscience.co.jp